

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所みのりあ		
○保護者評価実施期間	2026/2/2		2026/2/20
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 4	(回答者数) 4	
○従業者評価実施期間	2026/2/16		2026/2/20
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○訪問先施設評価実施期間	2026/2/9		2026/2/20
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数) 4	(回答数) 3	
○事業者向け自己評価表作成日	2026/2/20		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	関係機関との連携を重視した訪問支援体制	訪問前の事前情報共有を丁寧に行い、園の方針やクラス運営の状況を踏まえた支援計画を立案している。 支援実施後は口頭および書面で具体的なフィードバックを行い、現場で即活用できる助言を心掛けている。 支援が「助言のみ」で終わらないよう、継続的なフォローと経過確認を実施している。	情報共有の様式や報告内容の標準化を進め、より分かりやすく実践的な内容へ改善する。 園との定期的な振り返りの機会を設け、双方向の意見交換を強化する。 地域の関係機関とのネットワークをさらに広げ、包括的な支援体制の構築を目指す。
2	子ども一人ひとりに応じた個性の高い支援	アセスメントを丁寧に行い、子どもの特性や強みを活かした具体的な支援方法を提案している。 行動面のみならず、背景要因や環境面も含めた多角的視点で支援を検討している。 成功体験を積み重ねられる関わり方を重視している。	支援事例の蓄積と内部共有を進め、支援の質の均一化と専門性向上を図る。 職員研修や外部研修への参加を継続し、専門的知見を取り入れる。 支援効果の検証を行い、より根拠に基づいた支援へ発展させる。
3	丁寧で安心感のある対応姿勢	園の先生方の立場や多忙さに配慮したコミュニケーションを心掛けている。 指摘型ではなく、共に考える姿勢を大切にしている。 保護者との連携においても、安心して相談できる関係づくりを意識している。	接遇や相談支援に関する内部研修を継続実施する。 フィードバックの質向上のため、事例検討会を定期開催する。 苦情や要望を真摯に受け止め、業務改善につなげる仕組みを強化する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援実績の蓄積と専門性のさらなる体系化	支援事例の蓄積や検証データが十分とはいえない段階である。	支援事例の記録・分析を継続し、実践知の蓄積を図る。 定期的なケース検討会を実施し、支援の振り返りと質の向上につなげる。 外部研修への参加や専門職との連携を通じ、専門性の強化を図る。
2	訪問支援における園との相互理解のさらなる深化	訪問支援は園の保育活動の中で実施されるため、支援の意図や役割が十分に共有されていない場合、遠慮や配慮が先行することがある。	訪問前後の丁寧な説明と振り返りを徹底し、支援目的の共有を図る。 園の負担とならない時間設定や関わり方を継続的に検討する。 双方向の意見交換の機会を設け、率直なご意見をいただける関係づくりを進める。
3	利用児童数が少数であることによる事業の安定性	現在の利用児童数は適正な支援体制を維持できる範囲ではあるが、事業の安定的運営や地域への周知という観点では、さらなる理解促進が必要である。	地域の関係機関への丁寧な周知活動を継続する。 支援実績や取り組み内容を分かりやすく発信する。 保護者や関係機関からの相談に迅速かつ丁寧に対応し、信頼の積み重ねを図る。